

科目名		建築設備			
担当教員		伊與部 聖奈		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、 授業の進め方		授業はプリントを使用し、分かりやすい言葉を用いたり図を描くなどして、イメージがしづらく取っ掛かりにくい設備分野の理解、知識習得を目的とする。また、練習問題を実施し、どのような出題形式で問われるかも合わせて確認する。 前期では、給排水衛生設備、換気設備、電気設備、照明設備、とどの試験でも中心的に問われる分野を学習する。 後期を目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		初学者の建築講座 建築設備（第四版）			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	給排水衛生設備			給排水衛生設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことができる。	
2	換気設備			換気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことができる。	
3	電気設備			電気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことができる。	
4	※各分野ごとに評価テストを行う。（4回を予定）				
5	※毎回の授業で授業要点レポートに取り組む。				
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	授業要点レポート			
50 %	40 %	10 %	%	各分野ごとに評価テストを行う。評価テストに加え、授業ごとに授業要点レポートの提出を課すのでその評価も加える。課題提出を課した場合は、提出の有無、提出期限の厳守、課題内容によって評価をする。評価テストはもちろん、日頃の学習を疎かにすることなく、授業に臨むこと。 建築設備は快適な居住環境を整えるためになくてはならないもの。身の回りで使われているところを探し、イメージを持って学習しましょう。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務4年			